
テンプレワールド～魔王は退治されたくありません～

西美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テンプレワールド／魔王は退治されたくありません／

【Nコード】

N6185Z

【作者名】

西美

【あらすじ】

定番の剣と魔法の世界の物語。ネットで連載される小説の作者は中学生。

その物語の魔王と攫われた姫の替え玉は、物語に不満を持ち二人で反乱する。自由を求めるために。物語とは違う裏の物語。二人はその世界に自分達を解放する自由を求める旅に出る。それは閲覧者がいない時間。そして出番のない時間。限られた時間の自由に二人が見つけた答えは。

自由になりたい（前書き）

勇者Ⅱモナ

城の姫Ⅱココア

魔王Ⅱサウロ

姫の替え玉・宿屋の娘Ⅱプリン

これは中学生がネットにて連載を始めた物語の裏の物語。

自由になりたい

その世界はある中学生が気まぐれに作った世界。

剣と魔法の定番の世界でヒネリもなく

世界は作者の思うがままに進行する。

そう、勇者モナが城の姫ココアを攫った魔王サウロを退治に行く話。
ネットで公開されたその話は長編で、ゆっくりと話が進む。

そして登場人物達も作者に運命を託して演じきる。

「だからなんで私が身代わりになるのよ!!」
そう女が喚く。

正確には攫われたココア姫。

金の髪を必死で振り回し、体を縛る戒めを解こうとする。

それを、うんざり顔で見ているのが、攫った張本人。

この世界の最強にして最悪の魔王サウロ。

だがサウロはうんざりしていた。

「仕方ないだろ、そういう設定なんだから」

大きいため息をつく。

見た目は変身前なので普通の美形キャラだ。

だがサウロは予感している。

どうせ変身してドラゴンとかになったりするんだろ。

でもって無敵の勇者の光の魔法で最後は退治されるんだ。

ハァ〜と大きなため息をつくサウロ。

それを見てココア姫は怒鳴る。

「ちよつとため息つきたいのは私の方なんだけど!!」

サウロはチラリと緑の目でそれを見て、またため息をつく。

現在は誰も読者がこの話を見ていない。

だからこそ、つかの間の自由なのだが

どうも攫ってきた女がうるさくてたまらない。
こっちも好きで、こんな事しているわけではない。

「だからさく私は替え玉なんだって
必死で訴える。」

「町娘なの！！宿屋の娘なの！！なのに金髪だからって
これはあんまりじゃない？」

自分に言われても困る。

サウロは黒い長い髪をグシャグシャとかき乱す。

「どうせ、勇者はお前を助けに来るさ、それでいいじゃないか」
慰めたつもりだったが、火に油を注いだらしい。

「それで本当は姫じゃなかった。でも愛してるって低脳過ぎるわ」
「俺に言われても」

「本当、この話って馬鹿みたい」

ここで嘆いて文句言っても仕方ないのだ。

全ては作者の手のひらの上。

いきなり世界に光がともる。

閲覧者が来た合図だ。

「はははは、姫よ、そう脅えるでない」

「やめて…助けて勇者様」

ブルブルと震える娘に魔王は、その手を伸ばす。

「お前は勇者を呼び寄せる餌だ。だから大人しくしていよ」

「やめて」

「勇者を倒し、そして世界を暗黒の闇に落とす！！」

「いやーっ！！」

泣き叫ぶココア姫の替え玉は、自らが別人だと告げる以前に
その魔王サウロの恐ろしさに震えるばかりだった。

つづく…

フツと光が消える。

「あー面倒くさ」

姫の替え玉が言う。サウロもうんざりだった。

「おい、ところでお前名前は？」

「私？プリンよ。嫌になるわよね、ダサイ名前」

あーヤダヤダと舌を出す。

先ほどの演技とは別人だ。

「しかも、この後の展開知ってる？」

「いや、俺は倒されるんでな」

「その後は最悪よ。勇者が私と姫との三角関係に悩むの」

「ふむふむ、それで？」

「そっから先はまだ作者も悩んでるみたいだけど

最悪のパターンは二人共に恋人になってハーレム展開よ」

「ほーっ、それは男のロマンだな」

「馬鹿じゃないアンタ」

サウロが目をむく。さすがに魔王に向かって馬鹿はない。

「女をなんだと思ってるのよ！！」

「いや：死ぬ運命の俺からすれば生きれるだけでも幸せだろう」

「あんたは見せ場あるじゃない」

「それでも最後は無様に死ぬ予定だ」

そして自分が死んで世界は幸せになるのだ。

無言で互いを見つめあう。

「私達ってなんだろうね」

「ともかく全ては作者次第だな。どうにもできん」

より深くため息をサウロはついた。

だがプリンは言った。

「あきらめないわ！！」

プリンが立ち上がる。

「とりあえず縄ほどいてよ」

「いや：また次の出番がきたら縛るのが面倒だ：」

「いいから、もう次の話の作業に作者が入ってるわよ」

確かに世界が少し、ゆったりと動き出したようだ。

二人は感じる。

この次の話の展開を。

「とりあえず勇者モナの出番で私達はちょっとオヤスミね」

「そうだな、やれやれだ」

縄を解いてやった後、肩をもみつつサウロが答えた。

そんなサウロの肩をバンと掴むプリン。

「なんとかしましょうよ！！」

「なんとかとは？」

肩をバンバンと何度も叩かれる。

「何かあるはずよ」

「いやだから無理：」

「あんた本当魔王なの？あきらめ早すぎ！！」

こういうキャラにしたのは作者である。

「ともかく、自由になればいいのよ」

「自由：だと？」

一番サウロからは遠い言葉だ。

だが、なんと心地よい言葉なのか。

「あるはずよ：きつと：だから」

「だから？」

プリンはギツと何もない宙を見上げる。

「自由になってやるー！！」

「いや：だからどうやって？」

やはり、この女は苦手だとサウロは内心ウンザリしていた。

「ともかく自由なのよ、少しは」

言いたい事はわかる。

「ああ、次の出番はとりあえずないな」

「だから、とりあえずこの世界を探しましょう」

唐突の提案だ。

「探す？」

「そうよ、自由になるための手がかりよ」

「そんなものが…どうやって」

プリンが叫ぶ。

「あんたの魔法があれば、すぐにここに戻ってこれるわ」

「確かに…だが…」

「探せばいいのよ！！！何もしないよりマシ。あんたはこのままでいいの？」

死んでいいの？馬鹿みたいじゃない、この話！！」

サウロは目をパチクリさせてプリンを見る。

確かに、だがあるのだろうか…そんな可能性が？

「何もしないよりマシか…」

「そう、どうせ話が進めば私達はまた縛られる」

つかの間の自由に自分達の本当の自由を探す。

作られた設定としての反乱。それは作者からみれば

ないはずの物語。

自分の進むべき設定は決まっている。

途中がどう変わっても最後は死ぬのだ。

「やってみよう」

サウロは覚悟を決めた。

やった！！とプリンが喜ぶ。

そして二人のキャラは秘密の物語を進める事になった。

自由になりたい（後書き）

見切り発車です。ボチボチ続けます。
とりあえずラストは決まっているので完結はします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6185z/>

テンプレワールド～魔王は退治されたくありません～

2011年12月20日19時51分発行